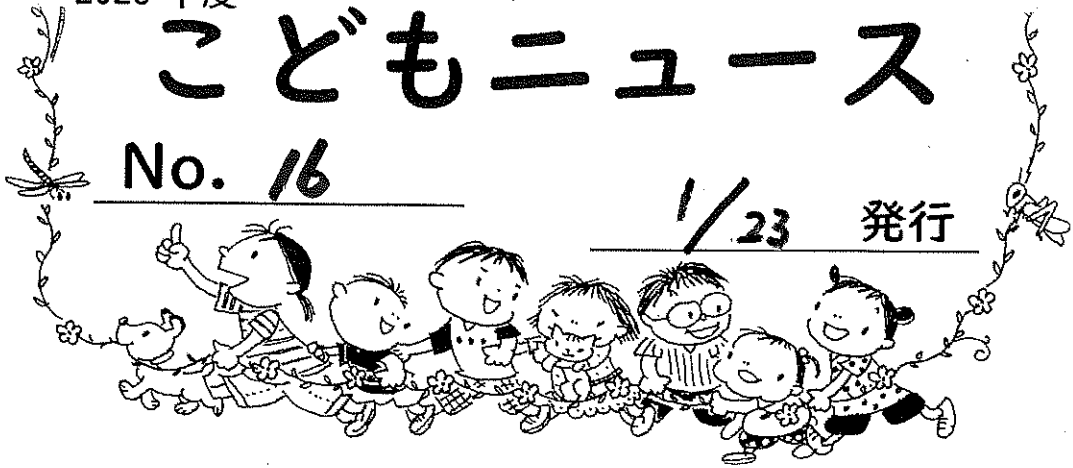


こどもニュース

No. 16

1/23 発行



「一緒にあそぼうの日」に向けて
主体的な遊びを通して育まれる「生きる力」
—自分が園生活の主人公—

「主体的」ってどういうこと？

最近ニュースや教育関係の特集で「主体的で対話的で深い学び」という言葉をよく耳にするのではないのでしょうか。これは2018年に改訂された教育要領が乳幼児から小学校、中学高校、大学に至るまで一貫して、この「主体的な学び」を教育の柱にすえて実践することになり、様々な取り組みがされているからなのです。

では幼稚園など、幼児の生活で「主体的に」ということはどのような姿で現れるでしょうか。私は子ども達の主体的な生活は

「今日は〇〇ちゃんと△△しよう!」と楽しみに「つもり」を持ってくる、そのような姿で現れると思っています。「今日は〇〇しよう!」と考えて登園してくる子ども達はエントランスを駆け抜けるように登園してきます。誰かに与えられた時間を過ごすのではなく、自分が今日一日の生活を組み立てる主人公だからです。学校の時間割のように大人の決めたスケジュールでも「〇〇したら△△だ」という生活の流れは理解し行動できるでしょう。でも「今日は昨日の続きのお城ごっこをするのにきれいな壁をつくる段ボールやいろんな色のビニール袋がたりないから朝一番に先生にあるかどうか聞かないと!」と自分自身が思い描き、組み立てた生活を実現するための見通しやつもりに基づく自分が主人公の計画で過ごす一日の流れは、誰かに言われてやる日々とはずいぶんと質や中味が違うのではないのでしょうか?

「せんせー、きょうなにをするの?」ではなく「せんせー、あしたもしろよ!」

そういえば金城学院幼稚園では「せんせー、きょうなにをするの?」という言葉をはほとんど聞いたことがありません。以前勤務した園では子ども達がよく言っていました。自ら確認するという意味で悪いわけではありませんが、これはその日の生活のプログラムを他者(生活の管理者である先生)に尋ねる言葉です。

私達の園では生活の大まかな流れは決まっていますが、今日の一日をどのように遊んで過ごすかは子ども達に任されていますし、特に年長児などが課題として継続して取り組む活動でも、ある一定期間の間に「〇〇日までにはやろうね」と締め切りがあって、その間のいつどこで取り組むかはやはり子ども達に任されています。(もちろんいつも物事を後回しにする子、一番にやっつけたいけど慌てるので作業が雑になる子など、色々な姿が浮かび上がります。そこにピンポイントで援助や指導をしていくのが本園の保育者の役割、腕の見せ所です!)

このようにだいたいの一日の過ごし方を自分で決めますから「きょうなにをするの?」という言葉は園の生活の中で必要ないのでしょう。逆によく聞くのは「せんせー、あしたもしろよ!」という言葉です。

子ども達自身に主体があり保育者を誘っている言葉ですね。

口々に「あしたもしろ!」と言いながらオリーブの前を小走りに通る子ども達の姿を見ると、「その子自身の園生活を生きているなあ」と本当に嬉しくなります。



「やってみたい遊び」から始まる「主体的で対話的で深い学び」

対話的で深い学び(アクティブラーニングとも言われています)、これは金城学院幼稚園がずっと実践してきた保育そのものだと思っています。

子ども達の「やってみたい」から始まる主体的な遊びの世界では、子ども達自身が「もっと面白く遊びたい」と願いを持ちます。面白さを追求するためですから「工夫」し「探求」し、必要であれば友だちと協力したり意見をすりあわせたりしますし、様々な理由で難しい局面に直面してもへこたれません。「あ!いいことかんがえた!」と前向きに問題解決しようとするのです。やり遂げた喜びは「あー、おもしろかった!またやろう!」と次の遊びやステップへと

繋がっていきます。大人から見ると「遊び」ですが、その「遊び」を通して子ども達は実に多くの事を学んでいます。

「まわらない」だけど「まわしたい!」—粘り強く取り組むことを支える「やってみたい」

年が明け、繰り返しコマまわしに挑戦している子どもたちがいます。おそらく今のご家庭ではコマで遊ぶ機会は減ったのではないのでしょうか。

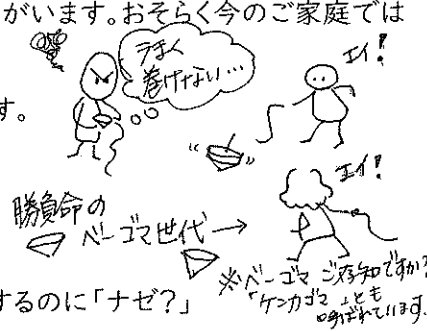
その子たちは回せなくても繰り返し繰り返し挑戦しています。

コマ回しは、すぐにできるようになる遊びではありません。

まず紐をまくことからして難しい。

すぐにはできないのになぜ何度も挑戦するのでしょうか?

時には投げ出しそうになったり、自分に怒ってイライラしたりするのに「なぜ?」



それは、ちょっと難しい事に挑んで獲得していく「過程と快感」を「身体」を通して感じられるからではないのでしょうか。キッチリと紐をまけた時、手の中のコマはずっしりとした質感になります。ちょっとした手のふり、構え、力の入れ具合でコマが手を離れる前から(あ、もうちょっとだった)(これはいけるかも)と自分でわかります。繰り返し挑むうちに、できそうな手がかりを途中で感じる、これは実体験でしか得られない「感覚」です。いきなり「結果」はでないけれど確実な自分の歩みを実感できる感覚が研ぎ澄まされていきます。

その感覚は言葉で表すならば「ワクワクする」感じとでもいうのでしょうか。決して無理難題に嫌々挑戦しているわけではないのです。

コマ回しにくりかえし挑戦している子ども達を見ているとまわらなくても(もうちょっとだ!)とうれしそうです。いつかきっとまわせる自分を信じている様子がよくわかります。

「粘り強さ」はこういった遊びを通じた実体験で得る感覚と深く結びついていると考えられ、体得すると成長してからも「学習」や「何かの獲得」の時にも同じように感じられると思います。こままわしという遊びひとつとっても、本当に多くのことを子ども達は学んでいるのですね!

でもこの「すぐに結果の出ない」時間を「待てない」子ども達が増えている事も事実です。ゲームの圧倒的なスピード感、目まぐるしく刺激される色彩の強さや動きにくらべれば、昔からの遊びは物足りなさを感じたり、また刺激が少ないと感じるのかもしれない。

こま回しをしている子ども達がいたら一緒に楽しんでみてください。まわらない悔しさ、もうちょっとというワクワクを感じてみましょう。「絶対まわしたい!」とのめり込むこと間違いなしです。それが本来の「何かを獲得するときの喜び」ではないのでしょうか。

「自分で創り出す面白さ」とその意味

幼稚園には様々な教材がありますが、子ども達が一番喜ぶのはご存知のようにおうちの方々にご協力いただき集めているさまざまな種類の「廃材」です。登園の時になにやら「装着」してくる、降園の時にはなにやら沢山紙袋に入れて「お持ち帰り」が園のスタンダードですね!「これとこれをくっつけたらいいかな」と見通しを立てたり、接着の方法を工夫したりしながら、一度でうまくいかなくても何度でもやり直し、時には何日もかけてオリジナルの作品や、ごっこ遊びに必要なモノを自分たちの手で創り出していきます。

この「繰り返し試行錯誤できる」ということが実はとても大事だと考えています。今、学校や学びの場面では「繰り返し試してみる」という事がなかなかできません。「なるべく早く正解にたどり着く」事を求められているからです。

でも物事の本当の理解は自分で繰り返し試し、考え、体感する事で獲得していくのではないのでしょうか?最初から決まったキットで決まった手順の製作の完成にも意味はあると思いますが、失敗しながらも工夫し自分だけのオリジナルの作品を完成させた喜びや、友達と協力し大型建造物(おうちや基地、迷路まで!)を生み出す達成感には心にとっかかり届き積み重なる、本当に確かな経験なのではないでしょうか。

—主体的な遊びを支える保育者の役割—

「やってみたい」という意欲や「どうして?」という疑問から探求や遊びが始まり「もっと面白くしたい」「もっと追求したい」と自ら願い、実現したり問題解決するために自分の考えに基づき創意工夫する子ども達。年齢が上がれば仲間と関わりあい、自分の意見を一生懸命伝え、相手の思いを聞き、受け止め、遊びの楽しさを分かち合おうとする姿があります。

主体的な遊びは自主性や創造性、人と関わる力(協同性や協調性)、粘り強く取り組む力など「生きる力」を育み「主体的に生きる」事と深くつながっていると思います。

その「主体的な遊び」をささえる保育者の役割は重要です。子ども達だけでは遊びの面白さの方向を見つけられなかったり、友達の思いをくみ取れなかったりします。一齐に並べて同じことを教え込むのではなく、一人ひとりの遊びを大事にしながら、遊びの面白さを通して、その子どもの、あるいは遊び集団の育ちに、「その時」に必要な援助をしていきます。本当に難しい事ですが私たち保育者自身も学びながら一生懸命関わっていきたいと思っています。皆様もぜひ子ども達の遊びの意味を感じ主体的な生活を体験してみてください。

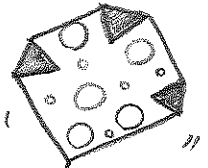
どうぞ皆様にとって、また子ども達にとっても、豊かで楽しい一日となりますように。

児玉 芽 

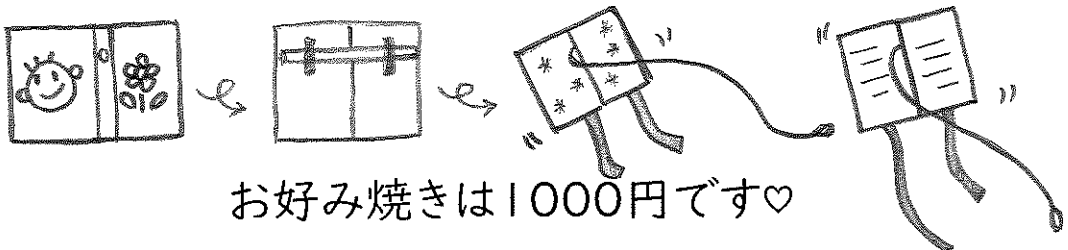
はとぐみで……



“お正月遊びを楽しんでいます♪”



3学期が始まり、冬休みをどんな風に過ごしていたか子どもたちに聞くと、カルタやトランプ、凧あげなど、家族でお正月遊びをしたと教えてくれた子が何人もいました。凧あげを「知らない」という子もいたので、クラスで手作り凧やコマの材料を準備。年長さんは、お見本の凧やコマを見ながら「ここに、ストローを貼るんでしょ。もうわかっちゃった♪」と自分で作り上げる子もいて感心しました。年長さんが楽しそうに作る姿を見て、年中さんや年少さんも興味津々。保育者が声をかけなくても、「ここに紙があるよ」「ここからストロー選んでね」と教えてくれる年長さんの優しさに、4月から一緒に過ごす中で築かれた信頼関係が感じられ、微笑ましく思いました。凧が完成すると、山の上から走ったり、テラスをグルグル回りながらお友だちと一緒に凧あげ。凧を高くあげるためにはどうしたらいいのかと、子どもたち同士で意見を出し合ったり、「それいいね～」と受け入れ、糸の長さやストローの位置を工夫する子どもたちもいて、3学期ならではの姿だなあと成長を感じる瞬間でした。子どもたちの様々な言葉のやり取りを聞いていると、こんなことも考えられるようになったのかと驚いたり、クスツと笑えてしまうようなお友だちとの会話も聞こえてきます。子どもたちの楽しい会話にも耳を傾けていただきながら、一緒に凧やコマを作って遊んでもらえたらと思います。



お好み焼きは1000円です♡

2学期に作ったお好み焼きを焼いて、お好み焼き屋さんが開店しています。最初はレジと鉄板しかなかったお店ですが、味付けの塩や焼き海苔、チーズなどのトッピングも少しずつ増えてアレンジ可能に。お店屋さんは年少さんや年中さんが中心なので、看板やメニューはどうかと困っていると、どこからともなく年長さんがやってきて「書いてあげよっか？」と、嬉しいお言葉。お店屋さんの店主に「お好み焼きはいくらにする？」と確認しながらメニューを作ってくれる姿はさすが年長さんです☆「お好み焼き屋さんにデザートもあるといいね」という店主の呟きから、今、ケーキも作り始めています。モンブランや雪だるまのケーキもありますよ♪お腹がすいたら、ぜひ食べに来てください。お待ちしております♡



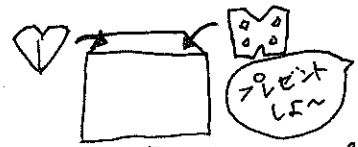
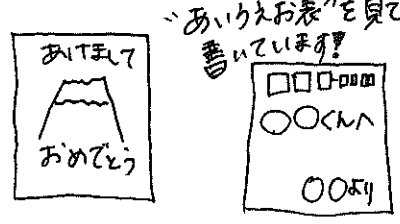
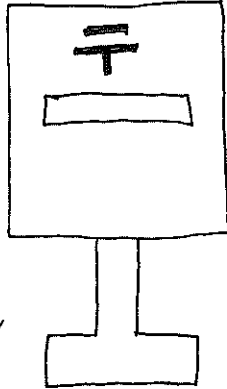
(Rina)

おてがみ、おとどけしま〜す

ゆうびんやさんのキットをもらったことをきっかけに、
ゆうびんやさんごっこが始まりました！
まずはポストを設置するところから…

お部屋ではお友達にお手紙を書いたり、

作った折り紙を封筒にいれたり…♡



ポストに入れておくと、
配達員さんがお届けしてくれます！

遊戯室前に設置!!

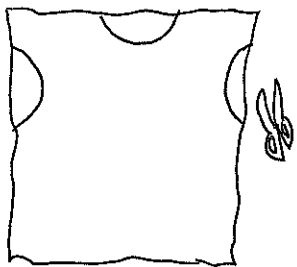
★自分で封筒を手作りしている子も!



お城でプリンセスになっちゃおう!

「お姫様の服を作りたい!」という子ども達が、ドレスづくりに挑戦!

カラービニール袋に線を描き…



折り紙が上手になった
子どもたち
どんどん作って
ハロハロ
見せつけてました★

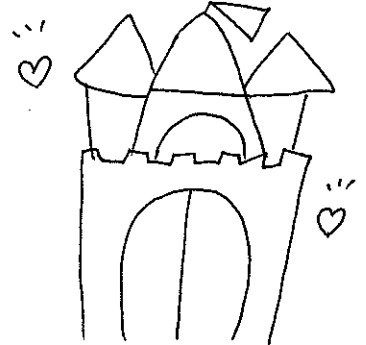
はさみでちょっぴん!

あとはそれぞれ好きなように飾り付けをしました♪

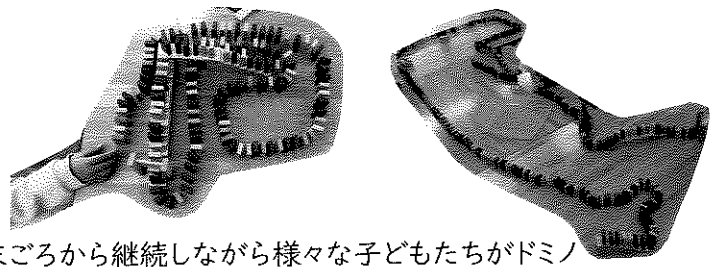
ドレスが出来たら、「次はお城が必要だね!」となり…
段ボールでお城づくりが始まりました。

「メイクをするお部屋がほしくない?」「鏡と椅子がいるよね!」
「あとはピンクの屋根とかもいる?」と子ども達のイメージはまさに
プリンセスのお城!!!

どんなお城になるのか?楽しみです! (あゆみ)



ドミノ倒し



ゆり組では、冬休みを挟んで2学期末ごろから継続しながら様々な子どもたちがドミノ倒しを楽しんでいる姿があります。

ドミノはドミノ牌を並べるだけの一見単純な遊びにも見えるかもしれませんが、けれども実際は、ドミノ牌が倒れる際にちょうど次のドミノ牌に当たるような距離間隔で置いたり、他のドミノ牌に触れないように並べたりといった、距離感や手先の器用さ、目と手の協応が必要となってくる奥の深い遊びです。また、ドミノ牌の並べ方も無限大で、並べ方によってはアートのようにもなります(年末の歌番組で巨大なドミノ倒しを見た方もいらっしゃるのではないのでしょうか)。

はじめは、自分の前のスペースにほんの少しのドミノ牌を並べていた子どもたち。時には、手がぶつかったり、机が揺れたりして「あーっ」「もう!!」という声が上がること。また、倒してしまった自分だったり、机を揺らしたお友だちだったりに怒りを与える姿もありました。それでも、そこでめげずに繰り返しチャレンジしていくことで、だんだんと並べることに慣れ、狙った位置にドミノ牌を並べることができるようになってきました。

また、並べ方も、最初は手あたり次第様々な色のドミノ牌を並べていましたが、同じ色を連続して並べてみたり交互に色を変えてみたりと並べ方にも工夫が表れ始めました。

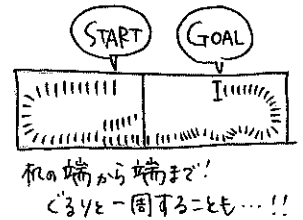
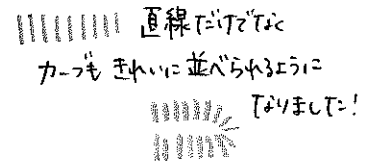
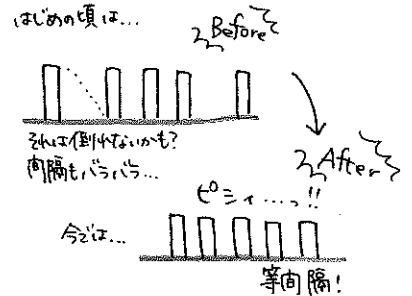
次第に、自分の前のスペースだけだったものが、近くにいる子が作ったものと繋げるようにして長いドミノにしてみたり、お友達と協力して長い長いドミノを作ってみたり……。机を2~3台並べて長いドミノを楽しんでいます。

長くドミノを並べると、完成までに倒れてしまう可能性も増しますが、友達同士と一緒に並べたドミノだと、たとえ倒れてしまっても「あ! ……仕方ないね」「もっかい並べよ!」「次はもっと長くしようよ」と、自然に倒してしまったことを受け止め、次へと向かう気持ちも生まれてきました。

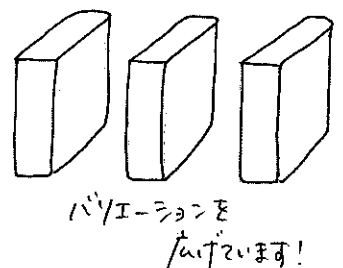
もちろん、長く並べたドミノが最後まできれいに倒れた時の爽快感も楽しいのですが、並べているときの子どもたちの様子ほど楽しそうな姿はありません。きっと、どの子も倒した時のイメージを思い浮かべているからなのだと思います。

最近では、トンネルのように二階建てにしたルートを作ってみたり、ピラミッドのように積み上げた部分を作ってみたり……。子どもたちの創意工夫がより光っています。ひょっとしたら、年末の歌番組からの刺激もあるのかも?

今後、どんなドミノが登場してくるのか楽しみです。(ゆか)



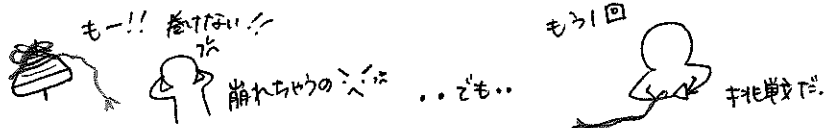
最近、サイズの揃った箱をドミノに加えて、



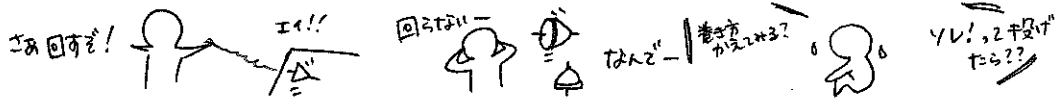
ひっじごみ ぶどうぐみのお部屋では...

☆回したい!...けど難しい。

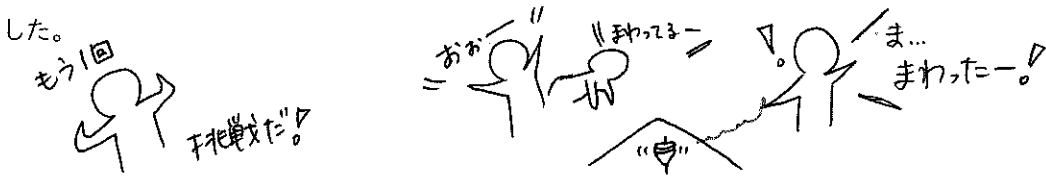
3学期がはじまり、せつかくならお正月遊びも楽しんでもらいたいなあ...と、コマを出してみました。初めはひもを巻くことさえ上手にいかず、できないことに怒りながらも、その場を離れず何度も挑戦していました。



何日か挑戦を続けていると、巻き方のコツがわかりスムーズに巻けるようになってきた子も。やっと回せる!と思ったけど次の難関が待ち構えています。ちゃんと巻けたのに...投げても回らない!保育者も何とか子どもに回してほしいと言葉を尽くしてアドバイスしますが...むずかしい。



何度も何度も挑戦し、午前中だけでなく食後もひたすら巻いては投げ、巻いては投げ...ついに回った!周りで見っていた子どもたちも「先生!〇〇くん回ったよ!」「見て見て」と大興奮の瞬間でした。



その後も繰り返し楽しむ中で「こっちのコマも回したい」「もっと長く回るように」と次の目標を掲げて挑戦し続けています。いっしょに遊ぼうの日には“挑戦してみたい方”“達成感を子どもと味わってみたい方”、是非子どもたちと一緒にコマ回してみませんか?

☆たまには静かに...

ひっじごみぶどう組はお外で遊ぶことの好きな子が多く、お部屋には制作好きの子どもたちが集まっています。しかし、食後やお外がとっても寒い日にはお部屋でゆったりボードゲームにも親しんでいます。ルールを知っている年長さんが年中、年少さんに説明してくれたり、一緒に遊びながら手を取って教えてくれたり、縦のつながりを感じるひとときでもあります。中には“運”が勝負を左右するものもあるので、学年関係なく「勝って嬉しい、負けて悔しい」経験を楽しんでいます。

☆制作アレコレ

「先生、カーテン作りたいから布が欲しいの」「このトレーに合うお寿司を作ろう!」自分たちの思いを形にしていく“せいさく”を楽しんでいる子どもたち。おうちやお店が少しずつ変化しながらできてきています。いっしょに遊ぼうの日にはどんな風になっているかなあ...





*

*

*



*

にじぐみ

*



*

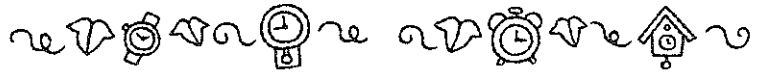
*



3 学期に入り、いよいよ進級に向けてプレ異年齢クラスが始まりました。クラスのあつまりの時間に子どもたちは各クラスへ移動します。お兄さんお姉さんたちに囲まれて、緊張気味のにじぐみさん。お名前を紹介するときもドキドキしていたようです。しかし、一緒にゲームをすることになると、お兄さんお姉さんたちが盛り上げてくれるので、その雰囲気でのにじぐみさんも楽しく参加できています。また一緒に凧を制作したクラスでは、お兄さんお姉さんたちに教えてもらいながら、一生懸命取り組むことができました。皆で凧を持って外に出て、走って飛ばしたことも楽しかったようです。にじぐみの部屋に戻ってきたときには、「たこ、つくったよ〜!」と満面の笑顔を見せてくれました。また年中さんと一緒に行ったおさんぽでは、年中さんが上手に手を引いて歩いてくれたので、いつもよりもずっと早く薬草園に到着することができました。そこでは皆で氷鬼やおおかみさん今何時?をして遊びました。年中さんの勢いに負けじと必死に逃げるにじぐみさん。気持ち的にはいつもより早く走っている気になっていたようです。

これからも年上児と一緒に楽しく遊んだり、生活することで心地よい関係性を育み、安心して年少さんへ進級できるようにしたいです。

おおかみさんいまなんじ?



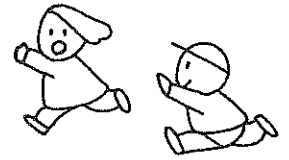
前述にもありましたが、「おおかみさんいまなんじ?」とは、ひつじになった子どもたちが、夜中の12時になったら、襲い来るおおかみから身を守り、ひつじの家へ必死に逃げ込む一種の鬼ごっこです。ひつじたちはおうちからおかみの元へ「おおかみさんいまなんじ?」と聞きながら近づきます。おおかみが「よなかの12じ!」と言ったらお家へ逃げ込みます。それまでは「よるの8じ」「よなかの10じ」などおおかみの返事をしっかり聞かなければなりません。逃げきった後は「つかまらなかった!」と大興奮。皆で「セーフ!」「イエス!」のコールで盛り上がります。ぜひおうちのかたとも、一緒にドキドキ感と一体感を味わっていただければと思います。

小さな遊びからコツコツと...



にじぐみの子どもたちは一人遊びから、友だちと一緒に遊ぶことが楽しいと感じる時期となり、様々な遊びを通して日々心も体も成長しています。外では宝物集め、泥だんごづくり、お山やトンネルづくり。またロープ遊具を楽しんだり、三輪車を上手にこいだり、押ししたりして、友だちとできるようになった喜びを共感している姿もあります。また、室内では折り紙や切り紙など、製作あそびも繰り返し楽しみながらとても上手になっています。ごっこあそびもできるようになって、パーティのお料理を作ったり、キャンプをしたり、どこかに電話をしてお話していたり(笑)日頃の生活があそびに生きているのだなと感心します。どの遊びも年上児のお友だちの影響を受けています。

そんなことを心の片隅に置いていただき、にじぐみワールドをぜひお楽しみください。 Akie✧



園庭でも楽しい遊びがいっぱい☆

☆話し合いから始まります

明日はこんなことをしたいな、今日はこの遊びをしよう!と、毎日やりたいことを考え楽しみに登園してくる子ども達。園庭中央でも、ドッジボール、リレー、どろけいなど色々な遊びが繰り広げられています。しかし、遊びの内容によっては一度にすべてできない時もあります。その為、朝の体操が終わると、まずはどの遊びをするのかを話し合うのです。年長さん中心に話し合いが進められ、年中さんや年少さんも「うんうん」と聞きます。「今日は何からする?」「ドッジボールがやりたい人?」「リレーがいい人?」「じゃあドッジボールが一番多いからまずはドッジボールね」と民主主義の為?!多数決で決まります(笑)いつもこんな風に話し合いが行われています。年長さんがみんなをリードしていく姿は本当に頼もしいです。

☆楽しさが広がっています

「昨日おうちでボールを投げる練習したよ。今日ドッジボールやりたい」と今までドッジボールに参加しなかった子も、友だちが楽しそうに遊んでいる姿を見て仲間に入るようになりました。リレーでも運動会で憧れの年長さんの姿を見て、年少さんや年中さんも参加するようになりました。バトンが上手く渡せなかったり、自分の順番が来て走り始めることができなくても、近くにいる年長さんに助けてもらいながら、リレーを楽しむ姿に、縦割り保育の良さだと感じます。どろけい遊びでは、「警察の人数が多かったから負けたんだ!」と悔しくて泣いてしまう姿も時々見られますが、どのルール遊びも、繰り返し楽しむ中で、勝ったり負けたりしながら、その遊びの楽しさを知っていきます。まだその楽しさを経験していない子も、この“いっしょに遊ぼうの日”でおうちの方や友だちと挑戦することで、楽しさを味わってもらえたらと思います。是非みなさん園庭で身体を思いっきり動かして遊んで楽しみましょう!!



☆寒い日にはかまど遊び!

先日プランターで育てて収穫してあったお芋をかまどで焼きました。この日は朝から曇っていて寒かった為か、多くの子が火番を喜んでする姿がありました。火ばさみを使って木材を燃やしたり、炎が落ち着くとうちわで扇いで火を強くしたり、火番を楽しみました。「今度はマシュマロ焼きたいね」「リンゴも焼いたらおいしそうだよ」と話が膨らみ、次のかまど遊びでは何を焼こうか只今相談中。寒い日ならではの遊びの一つとして、楽しんでいきたいと思っています。



(AKI)



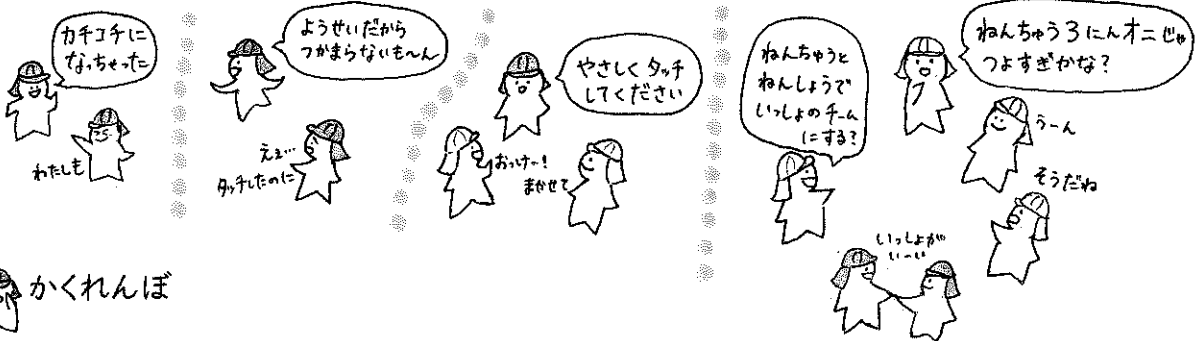
年少さんも! 氷オニ

年長さんと一緒に氷オニは、まだちょっと勇気が出ないけど…お友達と氷オニやりたい! という年少さんが、顔と役割を覚えられるくらい的人数で氷オニを楽しんでいます。

始めたばかりの頃は、なかよし〜♡で一緒に逃げて一網打尽になったり、いつのまにか他の遊びを始めていたり、捕まりそうになると「妖精だから捕まらないも〜ん」とバリアを発動したり…と自由な年少さんたちでした。繰り返すうちに、オニになってタッチできたときの嬉しさに加え、オニにタッチされて凍る面白さや、仲間を助けたり助けてもらったりする楽しさも感じられるようになってきました。

元気いっぱい走る年少さんを見て、年中のお兄さんお姉さんもやりたい! と仲間入り。オニ役と逃げる役の力の差が大きいとすぐに終わってしまうので、どうしたらバランスがよくて楽しめるか、年中さんを中心に考えています。

「お友達に氷オニに誘われたけれど、オニに捕まるのが怖いからやりたくない」という年少さんがいました。お友達がやっているのを見ているうちに“オニならできるかも”という気持ちになり、「捕まるのが怖いからオニをやりたい」とみんなに伝えると、「いいよ!」とメンバー全員が快く受け入れてくれました。安心できるお友達と、優しい年中さんたちと一緒に楽しんでいたら、少しずつ慣れてきたようです。いつもオニをしていた年少さんが、「優しくタッチしてください」とオニにお願いして、初めて逃げる役に挑戦できたときには、お友達も一緒に喜ぶ姿がありました😊



かくれんぼ

氷オニでたくさん走った後は、かくれんぼも人気です。“どこにうまく隠れるか”というより、保育者やお友達と一緒に隠れて、待っている時間のドキドキを共有することが楽しい年少さんです。

最近、築山のトンネルの行き止まりになっている暗いところに隠れるのがブーム。工事好きの年中さんが「隠れるのにいい場所知ってるよ!」と教えてくれました。真っ暗なところにおそろおそろ入ってみると、はじめは何にも見えないけれど、目が慣れてくるとお互いの顔が見えるようになり、静かにしているとオニには気付かれない不思議な場所です。同じく、おそろおそろ探しにきたオニも、暗がりから聞き慣れた笑い声がすると、ぱあっと笑顔になっていました。

